

構造工学論文集 Vol. 72B（建築部門）投稿要領

一般社団法人日本建築学会
構 造 委 員 会
構造工学論文集編集小委員会

構造工学論文集編集小委員会（以下、編集小委員会）は、構造工学論文集 Vol.72B への投稿論文を募集するので、執筆者は本要領に則って論文を投稿されたい。なお、本論文集は日本建築学会会員資格の有無によらず投稿できる。

1. 対象論文

- 対象論文は、主として建築構造物にかかわるすべての工学技術についての未投稿論文で目的、方法、結論等の明記された、理論的または実証的な研究、あるいは新しい知見を含み学術的に価値の高い特色のある施工、調査など、構造工学の発展に寄与すると考えられる論文を対象とする。
- プログラム編成の参考にするので、以下の部門名の中から適当なものを選択し投稿されたい。

1. 応用力学・構造解析	2. 外乱・設計荷重	3. 基礎構造・地盤工学
4. 振動・免震・制振	5. 鉄筋コンクリート構造	6. PC構造
7. 鋼構造	8. 木質構造	9. 壁式構造・組積構造
10. シェル・空間構造	11. 合成構造	12. 仮設構造
13. 原子力構造	14. その他（海洋構造、設計理論、安全性、新構・工法など）	

2. 登載料

- 論文の登載が認められた場合、ページ数によらず1編あたり50,000円（税込）の登載料を納入する。
- 請求書は2026年2月頃に発行し、筆頭著者にメールで送付する。

3. 執筆要領

- ページ数は最大14ページとする。
- 論文は「日本建築学会論文集」（黄表紙）の論文集執筆要領に準拠し、和文または英文で作成する。

参考1：[日本建築学会論文集執筆要領](#)¹⁾

参考2：[版下原稿執筆の手引き](#)²⁾

参考3：[和文論文作成のポイント（体裁見本）](#)³⁾

- 論文の原稿テンプレートは以下からファイルをダウンロードして使用する。

原稿テンプレート（Word）：[和文](#)⁴⁾／[英文](#)⁵⁾

- 論文の第1ページには以下の文を挿入する。
 - 1行目左「Journal of Structural Engineering, Vol.72B, April 2026」
 - 1行目右「Architectural Institute of Japan」
 - 2行目左「構造工学論文集 Vol.72B（2026年4月）」
 - 2行目右「日本建築学会」
- 論文の各ページ右下にページ番号を記す。
- 単位系はSI単位を原則とする。
- 既往の研究、関連研究を適切に引用し、研究の位置付けを明確にする。
- 連続した論文を投稿する場合は、各編が独立した内容とする。
- 論文は上記事項を遵守のうえ文書作成ソフトで作成し、Adobe Acrobat Readerで表示および印刷可能な6MB以内のPDFファイル形式で投稿する。
- 論文原稿PDFの投稿時のファイル名は以下に指定する。
 - 【ファイル名】draft72(****).pdf
 - ※上記の****には筆頭著者の氏名を記入する
 - 例：draft72(山田太郎).pdf, draft72(Jane Smith).pdf

4. 投稿方法と投稿期限

(1) 投稿方法

以下の手順①と②を投稿期限までに済ませる。

①投稿登録

- [投稿登録フォーム](#)⁶⁾（Google フォーム）より著者情報および論文情報を登録する。

※Google フォームに接続できない場合は、本要領末尾記載の問い合わせ先にその旨を伝え指示に従う。

②論文原稿PDFの送信

- 投稿登録の完了後、論文原稿PDFを添付したメールを事務局へ遅滞なく送信する。
- 送信するメールの宛先と件名は以下に指定する。

【宛先】kozokogaku@aij.or.jp

【件名】draft72(****)

※件名の****には筆頭著者の氏名を記入する

例：draft72(山田太郎), draft72(Jane Smith)

- 論文原稿 PDF の投稿時のファイル名は「3. 執筆要領」を参照し設定する。

(2) 投稿期限

2025 年 9 月 8 日（月）12 時

5. 査読結果の通知時期と最終原稿の提出

- 論文の査読結果は 2025 年 12 月頃に事務局から筆頭著者にメールで通知する。
- 論文が登載候補論文と判定された場合は、査読意見などをもとに論文を修正し、期日までに最終原稿および査読意見に対する著者回答をまとめた一覧表などを提出する（査読対応期間は 1 ヶ月程度を予定）。
- 最終原稿の登載可否は 2026 年 2 月頃に事務局から筆頭著者にメールで通知する。

6. 構造工学論文集の刊行時期と公開形態

- 構造工学論文集 Vol.72B は 2026 年 4 月上旬に刊行され、[J-STAGE](#)⁷⁾にて即時無償公開される。

7. 構造工学シンポジウムでの研究発表

- 論文が登載された場合、原則筆頭著者は次回の構造工学シンポジウムにおいて論文内容に係る研究発表を行う。
- 次回の構造工学シンポジウムは以下のとおり予定しているので論文投稿の際には必ず日程を確保すること。

第 72 回構造工学シンポジウム	
【会期】	2026 年 4 月 11 日（土）・12 日（日）
【会場】	宇都宮大学陽東キャンパス ⁸⁾ （栃木県）

- 具体的な発表日時やプログラムなどは論文登載決定後に事務局から筆頭著者にメールで通知するほか、編集小委員会 [Web ページ](#)⁹⁾にて告知する。
- 本シンポジウムでは「[若手優秀発表賞](#)¹⁰⁾」を設定し、学生、若手技術者などの研究発表の中から優れたものを編集小委員会にて選考し顕彰する。

8. 査読基準と登載可否の決定方法

- 査読判定基準は本会の「[論文集応募原稿査読要領](#)¹¹⁾」の査読評価基準に準ずる。
- 編集小委員会は 1 編の論文に対し、3 人の査読者に査読を依頼し、採用または不採用の判定を仰ぐ。査読に際し、査読意見も求める。
- 査読の結果、査読者 2 人以上から採用の判定を得た論文で、編集小委員会の審議にて査読結果が妥当と認められたものを登載候補論文とし、これに該当しない論文は登載否論文とする。
- 再査読は行わず、査読結果および審議結果に対する異議

申し立ては受け付けない。

- 編集小委員会は最終原稿が査読意見等に対して適正に修正されているかを確認し、審議のうえ論文の登載可否を決定する。

9. 編集小委員会の体制と役割

- 編集小委員会は下表の主査、幹事、委員で構成する。
- 編集小委員会は査読者による審査結果にもとづき構造工学論文集への最終的な論文の登載可否を決定する。
- 査読者選定をはじめ、編集作業の実務は主査、幹事で構成する幹事会で行い、選定した査読者名、査読結果を編集小委員会に報告する。

主査	永野 正行	（東京理科大学）
幹事	朝川 剛	（東京電機大学）
	小檜山 雅之	（慶應義塾大学）
	竹内 徹	（東京科学大学名誉教授）
	中野 達也	（宇都宮大学）
	西村 康志郎	（東京科学大学）
	山本 憲司	（東海大学）
委員	森 拓郎	（広島大学）
	新井 洋	（建築研究所）
	岡崎 太一郎	（北海道大学）
	楠 浩一	（東京大学）
	熊谷 知彦	（明治大学）
	真田 靖士	（大阪大学）
	藤本 利昭	（日本大学）

10. 問い合わせ先

一般社団法人日本建築学会 事務局

構造工学論文集・構造工学シンポジウム担当（加藤）

TEL: 03-3456-2057 / E-Mail: kozokogaku@aij.or.jp

【文中リンク一覧】

- <https://www.aij.or.jp/jpn/transaction/ronbun/shippitu.pdf>
- <https://www.aij.or.jp/jpn/transaction/ronbun/hanshita.pdf>
- https://www.aij.or.jp/jpn/transaction/ronbun/template_Japanese_mihon.pdf
- http://news-sv.aij.or.jp/kouzou/s11/72/template_Japanese.docx
- http://news-sv.aij.or.jp/kouzou/s11/72/template_English.docx
- <https://forms.gle/uRvFEvpWYCmuZY0q5>
- <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/aijse/-char/ja>
- <https://www.utsunomiya-u.ac.jp/convenient/campus-map.php>
- <http://news-sv.aij.or.jp/kouzou/s11/>
- <http://news-sv.aij.or.jp/kouzou/s11/text/award.pdf>
- <https://www.aij.or.jp/jpn/transaction/ronbun/sadokuyoryo.pdf>

以上